



町政を問う

質問者



早瀬 武臣 議員

問 農業の形態について

大規模担い手と、高齢、兼業農業者との連携、共存による地域営農の取り組みを問う。

答 集落や地域と協議

答弁 得能産業課長

担い手の確保、育成に取り組む、地域の土地集団利用計画の作成や、営農組織の経理の一元化、法人化計画作成についても支援していきます。

問 構造改革特区と地域再生事業の活用は

この制度について町はいかに考え、活用していくつもり

「高付加価値型の環境保全型農業による地産地消の展開の推進についても質問しました。」

答 積極的な提案を検討

答弁 白石町長

か見解を。また広く町民の声を聞く考えは。具体案として、市民農園開設特区の支援と、地域再生事業を活用し、無農薬米を子供達の給食に使用する考えは。

町もいろいろ考えていますが、地方自治体だけでなく地域住民、NPO法人、いろんな方々の提案があれば検討し、積極的に対応します。市民農園は今月、特定農地貸付に関する農地法の特例にて特区申請しなくても開設できるようなりました。無農薬米の給食使用は、給食運営委員会等で十分検討します。



問 教育改革について

考える力、心を豊かにする「ゆとり教育」と学力向上教育の取り組みについて見解を。また教師の資質の問題とその指導は。

OBの先生方にボランティアとして子供たちに学問、道徳を教えて頂く場の開設を提案するが見解を。

答 ゆとりの中で学力向上 積極的な研修参加

答弁 赤星教育長

学力は思考力、判断力、表現力や問題解決能力を育てるために、ゆとりの中で確かな学力を向上させることが大切であり、わかる授業、楽しい学習の展開を図っていきます。教育は人なりと言われる、教師の資質や能力の向上は重要課題として、積極的な研修参加等に力を入れていきます。OBの先生だけでなく、保護者、地域の方々にも学習ボランティアの協力をお願いできないか、またふれあい学園の中に子供版として魅力ある講座の開設が可能か検討中です。

「少子化問題についての見解も聞きました」

問 大型商業施設への特産物販売について

地元特産物販売はどのような形態か。その進捗状況は。また各関係者との協議展開についてご説明を。

答 運営方法について協議

答弁 佐伯助役

施設内に農産物直販所、店舗内に地場産の野菜コーナー、海産物の珍味など特産品コーナーを設置するとしています。また多様な販売形態による販売拡大の計画もあります。今後、地元農業者、各関係者と協議すること町も大いに期待しています。

「大型商業施設参入による旧商店街との共存共栄についても質問しました」